

「にっぽん丸 30 周年記念クルーズ」乗船記

明海大学ホスピタリティ・ツーリズム学部

上杉恵美



2021年10月22日～24日、にっぽん丸「30周年記念クルーズ」に参加しました。

このクルーズは2泊3日どこにも寄港せず、船旅ならではのゆったりした時間を過ごしながら、にっぽん丸30周年を記念した様々な船内イベントを思い思いに楽しむ、にっぽん丸ファンにとってはたいへん嬉しい企画でした。

今回私は、2日目のイベントのひとつ「花毛布講座」の解説役を担当させていただきました。船内で行われた盛りだくさんのイベントの様子を織り交ぜて、本クルーズをレポートします。

【新型コロナウィルス感染防止対策】

昨年11月初旬に参加した「秋の味覚クルーズ」と今回のクルーズで異なるのは、乗船前にPCR検査を2回受けることです。1回目は在宅で検査キットを使い、自分で検体を取って返送し、2回目は乗船当日、横浜のさん橋に近いホールで検査を受けます。乗船直前に受けるため、出港時間よりかなり早く横浜に着いていなければなりません。しかし、今のような状況ではこうしたプロセスが、クルーズに出かけるに際して安心材料となります。

船内の公共スペースにおいては、アルコール消毒液の配置、椅子やテーブル、手すりなど人の手が触れる場所の定期的な消毒、席と席の十分な間隔などが徹底しています。

飲食の施設では、クルーはフェイスガードとマスクを着用して接客し、QRコードリーダーを使って接客情報を記録します。レストラン「瑞穂」の朝食は、ビュッフェではなく和・洋の定食から選びます。



レストラン「瑞穂」朝食の洋定食

【1日目】

—横浜港大さん橋国際客船ターミナルからの出航—

22日は冬のような寒さの中での出航となりましたが、曇天に鮮やかな満船飾が映えて、記念クルーズを祝福していました。出航前の避難訓練には、防寒対策をしっかりとして参加しました。



—秋の花とハロウィンで彩られた船内—

深みのある色合いの花々や、オレンジ色や紫の手作りの飾り付けが、温かい雰囲気を演出していました。30年の歩みのパネル展示は、記念撮影のスポットとして人気でした。



—「花毛布講座」の準備—

翌日午前中に予定されている「花毛布講座」のために、クルーの皆さんと打ち合わせをしました。45分間の持ち時間中、前半はスライドを映しながら花毛布の歴史と継承について説明します。後半は客室担当クルー2名が実際に毛布を折って作品が出来上がる様子を披露します。

作品の種類やステージでの見せ方、コメントのはさみ方など、皆で意見を出し合って決めていきました。花毛布は、実際に客室で作る際は、折り手が作品の正面に位置します。ステージで最初から作品を正面に向けて作ろうとすると、観客側からは毛布を折る様子が折り手に遮られて見えなくなってしまいます。そこで、最初はクルーが毛布を折るプロセスをお客様に見ていただけるように、クルーが

観客側に向いたまま作品を作り、完成したらクルー側が正面、お客様には裏側になっている作品を、作業台となるテーブルを 2 人で持て 180 度回転させて、作品の正面をお客様に見ていただく、というやり方にしました。

準備中、ベテランのクルーがフィリピン人クルーに毛布の折り方のコツや仕上げのアドバイスをする様子を見ながら、船ではこのようにして 100 年以上も花毛布の伝統が継承されてきたのだなど、その情景を思い浮かべました。



一夜のイベント

1日目の目玉は、古今亭菊之丞師匠の落語独演会でした。美味しい和食ディナーでお腹が満たされたあと、22 時からピアノ＆ヴァイオリン＆オーボエのコンサートが開かれ、穏やかな気分で初日の夜を楽しみました。揺れをほとんど感じませんでしたが、にっぽん丸はこの頃、東京湾の浦安沖を回遊して、ゆっくりと浦賀水道に向かっていました。

【2日目】

—航路変更—

本クルーズの当初の計画は伊豆諸島周遊でした。しかし、天候不良の可能性が高くなつたため、航路が駿河湾～伊勢湾へと変更になりました。



前日と打って変わって青空が広がり、朝 6 時頃、清水沖から富士山のすっきりした姿が見えました。実は、花毛布講座の準備段階で駿河湾方面への航路変更が伝わっていたため、クルーの実演の最初の作品として「富士山」を選びました。

—30周年記念イベントが目白押し—

ドルフィンホールでは終日、イベントが開催されました。おもなイベントは次の通りです。

- 08:45 シェフのデモンストレーション
- 09:45 花毛布講座
- 11:00 にっぽん丸四方山話（2回制）
- 13:30 にっぽん丸 30周年記念対談 改装にまつわるストーリイ
- 18:00 花岡詠二 スキング・オールスターズコンサート（2回制）

花毛布講座では、事前にステージの両脇に5つの作品を展示していただきました。本番のステージでは、実演を行う2人のクルーが、普段浴びることのないスポットライトが当たり緊張気味でしたが、前日の特訓の成果が実り、見事な作品を披露してくれました。クルーの皆様のご協力に支えられて、何とか講座を終えることができました。今回はこの講座を通してクルーの皆様と交流できたことが、私にとって何よりも楽しい思い出になりました。



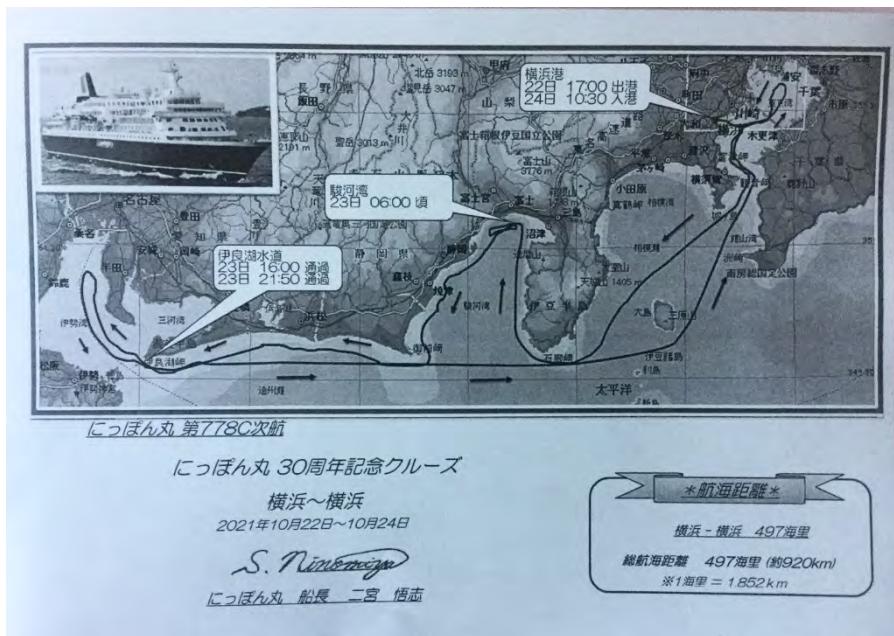
講座終了後は、展示された作品を写真におさめるお客様がたくさんいらっしゃいました。実演で紹介した「富士山」も好評をいただきました。また、家でも毛布を折ってみたいとおっしゃるお客様がいたため、花毛布の著書をお渡しました。後日お便りと作品の写真が届くのが楽しみです。

「にっぽん丸四方山話」では、現ににっぽん丸を誕生から知る村上寛船長と川野恵一郎ゼネラルマネージャーが、懐かしい写真とともにいろいろな思い出話をしてくださいました。

午後の「改装にまつわるストーリイ」は、ステージ上の山口社長と陸上のオフィスにいらっしゃるデザイナーの渡辺知之氏を衛星電話で結び、2001年以降数回行われたにっぽん丸の改装について、事前に録画した画像を映しながら説明を進める、という斬新な企画でした。絨毯にも表れているにっぽん丸の船内デザインのこだわり、「進化を続ける船」という言葉が印象に残った貴重な対談でした。



—船から見た風景—



午後のイベントにひと通り参加したあとは、外のデッキに出て風景を楽しみました。右舷側からは渥美半島の長い壁のような海岸線、伊良湖水道の岩礁や小島を見ることができました。夜はセントレア空港を発着する飛行機の灯も見えました。

—美食の船—

1日目の夕食は、秋の食材を生かした繊細な味付けの和食ディナー（あまりの美味しさに、写真を撮るのを忘れてしまいました）、2日目は歴代の総料理長から引き継がれる伝統を生かした「にっぽん丸 30周年記念フルコースディナー」。どちらも堪能しました。



【3日目】

—横浜へ—

船は伊勢湾から一路東へ進み、横浜に向かいました。最終日は真っ青な空と明るい陽射しに恵まれ、最高の船日和となりました。浦賀水道から横浜港まで、にっぽん丸は富士山にずっと見守られて、無事帰港しました。

コロナはまだ予断を許しませんが、今後のクルーズ業界が、この横浜港帰着直前の富士山が見える風景のように、明るい未来に向けて復活することを心から祈ります。

にっぽん丸の皆様、素晴らしい船旅、「変わらないおもてなし」をありがとうございました！

